

# 一宮町長賞

静岡県／66歳／男性／無職

きせつ ころぼこ

## 季節の小箱様

✉手紙の相手：結婚40周年の妻

生きてください。このまま死んではいけません。娘の孫たちは抱っこしたけど、息子の孫とはハイタッチしただけでしょう。ようやく「ばあば」と言えるようになった孫と手をつないで散歩したくはないですか。何とか気力を復活させて、リハビリに取り組んでください。ベッドで寝ているだけの君と話すのは、もう嫌になりました。

四歳の娘が不治の病を宣告された時、僕は思わず「もう駄目だ」と言ってしまった。そして、「私は絶対にあきらめない」と言う君に叱られた。あれから三十年、一日でも長く娘の命を伸ばそうと君が頑張ったから、医学が病気に少しだけ追いついてきた。あの時はドクターから、将来娘の妊娠出産は諦めろと言われたけど、娘の子たちと会えたじゃないか。娘も頑張ったけど、やっぱり君の諦めない強さのおかげだよ。

娘と息子がまだ子どもだった僕たちの「家族の時代」は、働いて生

きていくだけで精一杯だったけど、楽しいこともいっぱいあった。いろいろ思い出せるけど、まだ、君とは、昔の写真を見ながら思い出話に浸りたくはない。今の医学では君の病気の根本的治療は無理だけど、一日長く生きればチャンスは大きく広がるだろう。

ラジオの人生相談に、癌で奥さんを亡くした人が出ていた。「あなたには迷惑を掛けられない」という遺書を残して逝ってしまったと泣いていた。君がそんな選択をするとは思わないけど、日に日に気弱になっていく君の言葉に、胸の奥が落ち着かない。もう少しリハビリ頑張ろうよ。明日はリハビリの先生が来てくれる月曜日だよ。

娘夫婦も、息子夫婦も、君を旅行に連れていきたいと、いろいろ計画してくれている。二人とも良いパートナーを見つけ幸せな家庭を築いてくれて嬉しいね。僕らには敵わないけど。だから、生きてください。

✉手紙への想い

若い頃は何度か妻に「恋文」を送ったこともありましたが、40年連れ添った人に改めて手紙を送ることもなくなっていました。闘病を頑張っている妻にいつも冷たい態度をとってしまいました。とにかく生きてほしかったです。